

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100231		
法人名	社会医療法人 健友会		
事業所名	グループホーム星取		
所在地	長崎県長崎市星取2丁目2-43		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	平成24年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成23年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「星が取れるくらい夜空が美しい」と例えられるこの町に開設し5月で5年を迎えます。入居者様9名・職員8名の所帯です。1階は通所デイで、一緒に行事を行ったりにぎやかです。住宅地なので、地域の皆様も、庭の花を持って来て下さったり、地域夏まつりや敬老会・バザーなど、ご家族も一緒に地域交流を楽しんで頂いています。日常生活では、入居者様のご希望に添い、ご自分のペースでゆったりと安心して過ごして頂けるよう支援しています。当ホームでは、ご家族・地域・ボランティアの皆様のご協力のもと、毎月外へ出かけています。中でも、長崎市の行事「おくんち」や「ランタン」・お買い物などは好評です。ホーム内では、リクエスト食で皆様のご希望の食事を作ったり、生け花教室など喜ばれています。医療では、往診で内科・歯科の先生に来て頂き連携強化を図っています。入居者様全員が笑顔で過ごすことができるようスタッフ一同 寄り添っていきたくと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム星取では、23年度、2人目の看取りケアが行われた。職員全員が「いつも綺麗に痛みなく気持ちいように」と最期まで精神誠意のケアが行われた。支援後の振り返りも行われ、時に流されるのではなく、1日1日を丁寧に過ごされている事が伝わってきた。職員の意見を受容し、業務に反映させていく管理者の姿勢は変わらず、職員同士の意見交換も更に活発になっている。ご利用者のレベルの維持を大切に考え、できることは自分でして頂けるように努めており、歩行が困難な方にも、トイレでの立位ができる支援を続けることで下肢の筋力アップに繋がっている方もおられる。茶碗洗いや洗濯物たみ等もご利用者の役割になっている。朝から玄関のポストに新聞を取りに行かれる方や、繕い物や編み物をされる方、ジャガイモや渋柿の皮を包丁で剥いて下さる方など、ご利用者のお力を日々の生活の中で発揮して頂いている。職員のアイデアも豊富で、「おはぎ」が好きな方の誕生日には、「ぼたもち」をケーキ風に作り楽しんで頂いたり、日々の中で「楽しみを探そう」と、他のご利用者との会話作りやカラオケ、将棋など、「笑顔」が増える取り組みが続けられているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	6月には「ケアホームバザー」を行い自治会会合参加・回覧板、地域まわりをしました。何組か見学・相談にられました。地域と繋がる大切さをスタッフ全員が認識し、入居者様には地域行事への参加・通院・買い物・散歩支援など入居者様・ご家族様・地域のご意見を聞きながら企画・実践しています。	「利用者様が一番」という理念のもと、ご本人の願いや思いの把握に努め、少しでもご本人のお好きな事や得意な事ができる時間を作れる支援を続けてこられた。長年一緒に生活されてきた方の看取りケアも行われ、「いつも綺麗に痛みなく、気持ちよいうに」と精一杯の支援が行われた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・挨拶をきちんと、明るくするようにしています。・地域の行事準備の際は参加しお手伝い。・日常的に遊びに来て頂く。・おたよりを毎月配布。・学生の実習受け入れ ・外出時には近所の方にボランティアで参加していただく事もあります。	23年6月にホーム主催の「ケアホームバザー」には、地域の方が来て頂き、手作りのおやつや食事を楽しんで頂いた。毎月の自治会の会合にも管理者が参加し、情報交換を行っており、行事のボランティアに来て頂くきっかけにもなっている。地域の夏祭りのお手伝いにも、積極的に職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体の医療法人では友の会があり、地域で学習会を開いたり、相談を受け市の「家族の会」や包括支援センター・他施設などを紹介したりしています。おたよりを地域に配布することで、「関心を持った」「楽しく見ている」というお声も頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご様子と行事・他 スライドで毎回紹介しています。運営推進会議での情報・ご意見などは、参加したスタッフからカンファレンスで報告され全体討議しています。	年に6回開催されており、会議の時には「行事が多いですね」とお褒めの言葉を頂いている。地域包括の方等からは他のホームの取り組みを教えて頂き、地域の方からは地域情報を頂いている。防災についてもアドバイスを頂き、避難の場所として提案頂いたベランダを作ることもできた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に、「ホーム便り」の送付・運営推進会議での情報交換・一人暮らしの方の情報、相談など 連携しています。	22年から23年度まで、管理者が長崎市グループホーム協議会の理事をしており、市の方との意見交換の場も増えている。地域の方々の介護相談にも乗っており、安心して地域で暮らして頂けるよう、必要に応じて、地域包括の方や市役所の担当者にも相談しながら、解決策の検討が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」ホームの方針はスタッフ一人一人に定着しており、日常生活の中で、入居者様が笑って暮らして頂ける事を考えケアを行っています。(カンファレンス・個人面接時にも確認)	外部研修の受講後、職員全員に“高齢者虐待アンケート”を行った。その結果を踏まえての会議も行われ、職員からも「業務に流されていないか」「日頃の言動はご本人にとって快ち良いものであるか」などの振り返りが行われた。今後も、実践できている所はお互いに褒めながら、自信に繋げていく予定にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	H23年9月15日に長崎市による虐待防止研修会があり6名が参加しフィードバック学習会とスタッフアンケートを行いました。10月1日には「接遇」リーダー研修会に1名参加。全体で内容を深めました。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	子どもの行方が知りたいといわれるN様について、ご本人の希望で役所で追跡調査を行いました。他県に跨り中断となりました。一人暮らしの方に関しては福祉課の方と相談しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居様が入院・転医・ターミナルなどで退所されましたが、それぞれの方に不安がないよう対応しました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、おたより・日常の様子をご家族様へお送りし、運営推進会議での資料には行事や診療・研修など網羅させ、来られないご家族様へもお送りして情報を提供しています。ご面会の際は話せる雰囲気を作るよう心掛けています。	毎月の外出や行事、毎月のリクエスト食の希望等も伺っており、“おはぎ”が好きな方には、大きな“ぼたもち”をケーキ風に作り、楽しんで頂いた。“寂しい”という言葉が聞かれた時には、“なぜ寂しさを感じるのか”“楽しみを探そう”と、他のご利用者との会話作り、カラオケ、買い物など、職員全員で取り組まれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	●報連相ノートの活用、日常やカンファレンスで上がってくる事柄を大切に、反映させています。●1月には、個人面接を行い意見交換をおこないました。●研修会・学習会終了後食事会など行っています。	日常の中での気づきが沢山あり、朝の申し送りやカンファレンス・報連相ノート等で情報交換が行われている。報連相ノートには、職員が疑問に思ったことが記載されており、提案については管理者が前向きに受け入れ、改善が行われている。意見交換された内容を“記録”に残すことも大切にしており、情報の共有にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については、国策で一部定給・賞与に反映されていますが、生活を維持する面において不足している事に変わりなくスタッフの頑張りに見合っていない切実な問題です。介護福祉士など取得すると昇給するシステムです。公休・年休は希望を最大限に受け入れています。希望休や年休は出来るだけ希望を叶えるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は随時希望が出せるようにし、参加を保障しています。面接は、育成面接の要素をもって臨んでいます。介護手順チェックリストで各自が自分のレベルを確認しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎グループホーム連絡協議会において、事例検討会や懇親会に参加しています。また、理事として役割を担っています。法人内や老健懇などにも事例を持って参加しています。		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込みの時は、見学をして頂き内容を説明し、不安な事やご要望について把握しています。また、ご家族の承諾があれば家庭訪問をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の見学は多く、現状をお尋ねする中でご不安や疑問などにお答えし、お茶して頂く事もあります。お迎えや荷物運びなどもご家族の意向に添い行う事もあります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・複数の職員でお話を伺う中で、「今」必要な支援・対応を確認し、必要時変更し対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること・できないことをスタッフで確認し、生活を共にする・という視点で支援しています。時にレベル低下がみられたり、ご本人様の支援要求が強い時には臨機応変でご本人様に寄り添い考えて支援しています。(～せねばならない)はない。)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の絆を深める意味でおたよりと日常のご様子を毎月送付し、キーマン以外の家族の方へもご希望があれば送っています。写真を毎回載せ送る事でご面会の方もわかります。行事の折は参加して頂き、臨時診療の際は、ご協力をお願いし同伴して頂くこともあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、おたよりを送ったり、行事へのお誘いをしています。また、バザーなお誘いしています。	ご利用者同士の知り合いも多く、バザーの時や地域の行事の敬老会に参加すると、馴染みの方とお会いする事も多い。外出の時には、通い慣れた場所や馴染みの市場などに行き、ご利用者とお話をしながら移動している。“親戚の方の所に行きたい”と言う方もおられ、願いが叶えられるように努めている。	今後も引き続き、馴染みの場所等の会話を増やしていくためにも、昭和の時代の写真や道具、品物などを準備し、様々な会話を通して、ご本人の思いを引き出すことができると考えている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、相性があつたり合わなかったりで、トラブルになる事もあり、座席を替えたり間に入りトラブルを防いだりしています。何かの折には「ありがとうございます。」と感謝の意を表して、関わりがスムーズにいくよう配慮しています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された入居者様に対して、その後も食事の介助などの指導や励ましに行きました。また、病院から次の場所が順番待ちになっているH様へは時おりお見舞いに行き、ご本人・ご家族のお気持ちに寄り添い不安の解決を図りました。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、リクエスト食の日を作り、入居者様の食事の希望を聞いています。「寿司を食べたい」「カレーライス。カツののった」「肉団子」「やきそば」など、案外 肉をご希望のことが多く、食べやすく・柔らかくなど工夫しています。お寿司は誕生日や敬老会・リクエストの時、・・気軽に届けたいと思っています。	センター方式を活用しながら、生活歴や特技を把握すると共に、ご本人の喜怒哀楽にも寄り添っている。少しでも“生き生き”とした表情になられるように、ゆっくりとその方の目を見ながら、お話ができるようにしている。「何が食べたいですか?」「行きたい所はありますか?」と希望をお尋ねするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境などは、家庭訪問したりご本人・ご家族にお尋ねしたり、会話の中で見つけ出したりして把握には努め、日常生活の中で生かすようにしています。(生活パターンの保障・好きな馴染みのある家具・お仏壇のご飯・水変えなど)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前中は治療へ出かける方、サスペンスが大好きでテレビを見ている方、犬のモンのマッサージを行う方、抱いている方、それぞれの方の生活・心の動きがあり、把握して支援を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方について、ご本人を交えご家族と話しご意見を伺い介護計画を作成しています。ご家族やご本人様からのアイデアはあまりなく元気に、転倒などせずに過ごしてほしい・・が多いです。	計画の中には、“買い物に行く”“モンちゃん(愛犬)と遊ぶ”“編み物をする”“将棋を職員と一緒にする”など、ご本人の楽しみや役割も明記され、日々の生活に活かされている。細かな手順も記載されており、ご利用者にもわかるような表現になっている。医師からの指示も頂き、計画に反映されている。	今後も、ご利用者の“生き生きした”笑顔を増やしていきたいと考えられている。“将棋”が得意な方もおられ、今後、運営推進会議の参加者の方々にも相談し、“将棋仲間”を紹介して頂くなどの取り組みをしていく予定にしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫は多いが、個別記録に介護計画を意識しての記載は少なく、介護計画を主軸としてケアに活かし情報を共有しながら実践していきたいと思っています。この間、担当制を意識して改革に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共に生活をしている・・という視点から、臨時受診はご家族に連絡の上、臨機応変に受診体制をとったり、面会の方とも一緒にお食事を召し上がって頂いたりなど、その場に応じて対応する事は多く、スタッフは入居者様にとり何が今大事で、何を支援するかをそれぞれが柔軟に考え取り組んでいます。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当ホームの周囲は住宅地で、商店・銀行・美容院・役所・学校など車を利用しなければ行けない環境にあります。車で買い物ツアーなど行い喜ばれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・入居者様のご希望は大切にしようと考えていますが、現在の所、かかりつけ医を皆様希望されています。他に心療内科・皮膚科・眼科は通院介助しています。歯科は往診して頂いています。	管理者が看護師でもあり、職員も状態変化の観察力が増し、異常の早期発見、早期治療に繋げることができている。かかりつけ医には、往診前に必要な情報をFAXし、診察がスムーズに進むようにしており、通院介助時には、協力できるご家族には同伴を依頼しているが、職員が同行した時には、電話で受診結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、連絡・連携しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同じ法人の診療所・病院であり、看護師が勤めていた経緯もあって情報交換・関係づくりは良好です。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方については、入所時「看取りの指針」を提示し紹介しています。ターミナル期にあつて医者との診断のもと、ご本人・ご家族と相談し医者も含め方針を決める。ということになると思います。	管理者は訪問看護の経験もあり、終末期ケアに向けた話し合いが続けられてきた。ご本人のご希望があれば、最期まで精神誠意ケアをさせて頂いており、23年10月、ご家族とも協力して終末期ケアが行われ、ご利用者も一緒にお見送りをさせて頂いた。ご家族にアンケートを行っているが、その都度希望を伺い、個別に対応する予定である。看取りケアの振り返りも行われ、今後の目標も設定した。	今回の終末期ケアの時にも、職員は多くの学びを頂いた。「自分も立ち会いたかった」という職員も多く、今後は、希望する職員には立ちあえる環境を作ると共に、ご家族にも、最期のひと時の過ごし方を含め、ご家族と一緒に考える機会を作る予定にしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練時、救急処置・AEDについて学習を定期的に行っています。救急搬送が今年も続き、救急隊への個別報告マニュアルを作成しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご近所から5名の方を災害時の協力員として登録し、日中は、ご近所のパールドライの職員の方も支援して下さいます。	ご利用者や併設のデイの職員、地域の方にも参加頂き、昼夜を想定した避難訓練を年2回行っており、年に1回は消防署の指導も受けている。自動通報は地域の方にも連絡が行くシステムとなっており、23年3月には自治体主催の消防訓練にも参加した。災害に備え、飲料水や缶詰、ラジオ、卓上コンロなどが準備されている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけに努めています。9月に市主催の研修会に5名参加・「接遇」アンケートをとり研鑽しました。10月には「接遇リーダー研修」に参加しフィードバックしました。	「入居者様には人生の先輩として敬意をはらい、言葉掛けや態度はやさしく丁寧にいきましょう。笑顔で接しましょう。」という指導のもと、職員は日々支援を行っている。23年度も行動の振り返りを行い、職員から多くの意見が出された。人権尊重、接遇などの法人内研修も行われ、情報管理の徹底も図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動をおこして頂く時には、常にお尋ねして、ご自分の意志を表出して頂くよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、お一人お一人起きる時間も違い、その方に合わせて食事を提供しています。～せねばならない・という事はなく、入居者様の思いが第1ですが、外に出たり ゆっくりした時間を共有する事が不足しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居間には大きな鏡があり、朝の洗面時には、皆様 鏡を見て身なりや髪を整えておられます。散髪は2カ月に1回で入居者様の意向に添って行われています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	汁を注いだり、盛り付けをして下さる入居者様が限られており、「私ばかり・・・」と思われることもあって、無理強いする事なく出来る時はお願いしています。片付けをして下さる時は「ありがとうございます。」と感謝しています。	昼と夜は、野菜も多く、栄養管理ができている宅配サービスを利用している。月に2回のリクエスト食やおやつ作りの時は、ご利用者も一緒に作っており、盛り付けや片づけ等もして下さっている。回転寿司などの外食も楽しまれ、12月の望年会は、ご家族や地域の方も招待しバイキングを楽しまれている。	今後も引き続き、ご利用者と一緒にプランターでの野菜作りを行い、収穫の喜びを体験して頂ければと考えている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューが決まった食材が届くシステムで、栄養バランスは栄養士チェックのもと、行われています。水分量の少ない方は、水分量をチェックし、1000CC以上を目標に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人の力に応じた口腔ケアの支援をしています。2週間に1回は歯科往診があり、口腔点検・ケア・治療をして下さいます。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の力に応じトイレ排泄を支援しています。	個別の排泄パターンを把握し、日によってトイレの場所が分からない時は、さりげなく誘導するなど、その方の状態に応じたトイレ誘導を続けている。ポータブルトイレを使用されている方でも、日中はできるだけトイレを利用して頂いている。トイレには暖簾をかけ、ドアを閉めるなど羞恥心への配慮も続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給のチェックをしています。その方に応じて排便の性状・回数調査し、便秘薬の調整(種類の変更・時間の見直し)を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皆様入浴を楽しみにしておられます。入浴時間は、隔日で日中が基本で必要時シャワー浴など行っています。ご希望や入浴の変更から続けて入浴を行う事もあります。ご希望が夕方や夜・・というのはありませんが、マンパワー上無理でもありません。	入浴を好まない方には話題を変えてみたり、時には「温泉へ・・・」とユーモアを交えた声かけが行われている。入浴の時には、ゆっくりと職員との会話を楽しまれており、柚子湯や菖蒲湯など季節感を感じて頂けるような工夫も行われ、入浴後は保湿剤を使用したスキンケアも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中は起きて頂くようにしていますが、それぞれの方の状況に合わせて休んで頂いたり、好まれる方は意志を尊重し、自由にして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能書きを常に確認できる所へ置き、臨時薬や変更がある時は、伝達ノート・申し送りをきちんと行うようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダー作りは、娘様へ渡すプレゼントの一つ、と毎月楽しみに作るM様。おやつや牛乳瓶の片付けは自分しかいない・・・と体調が悪くても行って下さるK様。米とぎや食材の支度・味見などそれぞれの方のお力をお借りしています。毎週土曜日は気分転換に外出ヘルパーさんと浜ブラされる方もおられます。男性スタッフが大好きなT様は、傍にいただけでも幸せそうです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月に一度は行事として外出を入れ、ご家族・ボランティアの皆様のお力をお借りし行っています。日勤者を増やし、個別に楽しんで頂けるよう努力しています。「帰りたい」と言われる時は、付添いお供します。マンパワー不足で業務が先行している感があります。	毎月の外出を楽しみにされている方が多く、新戸町公園やペンギン水族館、あぐりの丘、外食、買物など、ご家族やボランティアの方の協力も頂き、月に1～3回は外出が行われている。ご家族と一緒に、外食やドライブ等の個別の外出も楽しまれている。	ご利用者も職員も外出が大好きなので、ホーム周辺のお散歩が楽しめるよう、取り組みを続けていきたいと考えている。まずは、2階のホームから1階に降りる取り組みを行い、そのまま玄関で日向ぼっこを行うなど、少しでも気分転換が図れるようにしていく予定である。

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持している方は3名です。ご家族がお渡しになる分・ご本人様が所持される分は、ご自分で管理して頂くようにしています。「お金」を持つ事、自分で支払う大切さは認識しており、出掛ける際は、個別にお金を準備し支援しています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>春の花見のお知らせでは、ご家族にそれぞれの方からメッセージをおくったり、いつもお世話になっているヘルパーさんにお返しの手紙を送ったりしました。電話がある時はおつなぎしています。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>トイレ・居間・居室では、不快な臭いがないよう、毎日スタッフがハイター消毒の掃除をし、特にトイレ・ポータブルトイレについては念入りに行っています。掃除時は換気に注意し、各居室の温度・湿度も気配りし洗面台には水を張ったり、風邪を引きやすい方は加湿器を使用したりしています。居室のドアには、とっておき写真とお名前、ご自分の部屋を確認しておられます。居間・居室には花を飾っています。</p>	<p>23年度には避難用のテラスが作られ、そこから1階に避難できるようになった。夜間の面会もしやすいようにセコムを設置し、2階から解錠できるようなシステムも導入された。月1回ボランティアの方による生け花教室が開かれており、ご利用者の作品が居間や居室に飾られている。リビングでは、セabee犬のモンちゃんに仕上げをされているご利用者の姿が微笑ましく、ご利用者の癒しになっている。</p>	<p>1階にあるホームの会議室を利用し、ご利用者と地域の方々が将棋をしたり、ご家族にも団欒して頂けるお部屋作りを検討していく予定にしている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビ前のスペースは、アイドルの犬のモンとの語らいの場所です。時にソファで横になったり、居室に入りテレビを見たり、居間で洗濯物を畳んだり、思い思いに暮らして頂いています。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の際は、ご家族様へ「馴染みの物をお持ち下さい。」とお願いをしています。箸はご自分の物を使っておられます。</p>	<p>居室の入口には、ご利用者と担当職員と一緒に写った写真が貼られており、お部屋の中にも、ご本人が作られた作品や写真、職員が作られた感謝状などが飾られている。使い慣れた椅子やテレビ、仏壇、筆筒等を持ってきて頂いており、自由に行動しやすいように、2枚マットの上に布団を敷いて休んで頂いている方もおられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>新聞を毎日読まれる方は、朝からエレベーターを使いポストから取って来られます。この時、他の郵便物も所定の位置へ置かれます。針仕事をされる方は糸を通してお渡しします。後から返しに来られます。ジャガイモや渋柿の皮は包丁で剥かれます。魚の下ごしらえもお願いしたりする事もあります。</p>		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	○馴染みの人や場との関係継続の支援・ご利用者同士の知り合いも多く、バザーの時や地域の行事の敬老会に参加すると、馴染みの方とお会いする事も多い。外出の際は、馴染みの市場や通いなれた場所など、ご利用者様とお話しながら移動している。	今後も引き続き、馴染みの場所等の会話を増やしていくためにも、昭和の時代の写真や道具、品物などを準備して、様々な会話を通して、ご本人の思いを引き出したい。	①「親戚の方の所へ行きたい」という方の願いが叶えられるよう努めます。②昭和の時代の写真や道具、品物などを準備して、様々な会話を通して、ご本人の思いを引き出します。	6 ヶ月
2	26	計画の中には、「買い物に行く」「モンちゃん遊ぶ」「編み物をする」「将棋を職員と一緒にする」など、ご本人の楽しみや役割も明記され、日々の生活に活かされている。細かな手順も記載されておりご利用者にもわかる表現になっている。医師からの指示も計画に反映	今後も、ご利用者の生き生きした笑顔を増やしていきたい。	①将棋が得意なご利用者がおられ、運営推進会議の参加者の方にも相談し、「将棋仲間」を紹介して頂きます。	6 ヶ月
3	33	○重度化や終末期にむけた方針の共有と支援 23年10月、ご家族とも協力して週末期ケアを行い職員は大きな学びを頂いた。	看取りの教訓を次回に生かす事ができる。	①臨終の折には、自分も立ち会いたかった」という職員も多く、今後は希望する職員には立ち会える環境を作ります。②ご家族には、最後のひと時の過ごし方を含め、ご家族と一緒に考える機会を作ります。(エンゼルケアの参加など)	次回 ヶ月
4	40	○食事を楽しむ事の出来る支援	ご利用者と一緒にプランターでの野菜づくりを行い収穫の喜びを体験して頂きたい。	①ご利用者・職員で何をどのようにして行うかを決める。 ②ご利用者・職員で購入・作付けを行う。 ③行事の中に畑仕事を組み込む。	8 ヶ月
5	49	○日常的な外出支援	ご利用者も職員も外出が大好きなので、ホーム周辺の散歩が楽しめるようにし、ご利用者の気分転換に繋げていく。	①2階のホームから1階に降りることから外出は始まります。 ②そのまま玄関で日向ぼっこ	5 ヶ月

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
6	52	○居心地の良い共用空間づくり	1階のホームの会議室を利用し、ご利用者と地域の方々が将棋をしたり、ご家族にも囲らして頂けるお部屋作りを行う。	①事務長・デイきらりにも提案し、同意・アドバイスを得ます。 ②ご利用者・職員の意見のもと、制作します。	12 ヶ月
7					ヶ月
8					ヶ月
9					ヶ月
10					ヶ月
11					ヶ月